

母親の過干渉に苦しむ少年

その子のいとこの不登校を解消した2年後の9月、中学3年生の男の子の不登校の相談が入った。友達に吹聴された根もない噂話で学校に行けなくなったと言う。(交流分析の)心理テストを採れば、感性の値は(100点中)0、全く感情を押し殺して外に出せない。父性18、年齢に応じた行動、即ち、学校に行くという行動に自分をコントロールできない。母性20。知性10、そうした自分の状況を俯瞰できない。順応性(周りの目を気にする)の57と異常に高い、だから。学校に行けない。

心配する母親に連れられてきた。本人を横にして、母親はその友達の話を捲し立てる。中学校3年生の9月も下旬である。こんな時期にそんな友達のために学校に行けなくなり、普通に高校進学ができなくなるといきり立つ。自身の妹の子(彼のいとこ)の不登校は他人事であったが、まさか自分の長男が不登校になってしまったとは。怒りと不安で焦る母親。

申し訳ないが、母親には先に帰って頂いて、本人と二人だけで話をさせて頂いた。聴くに、物静かな父親はうつが発症し、1年程休職したばかりと言う。男勝りの母親は、某社の管理職で25,6人の部下を取り仕切っているとのこと。その母親は毎日の寝起きから、歯磨き、制服の乱れや靴の汚れにも口うるさく、当然に毎日の学校からの連絡や宿題の確認、定期試験の成績に至っては褒めてもらったことがないと言う。定期試験では250点満点中、200点を超していると言う。その心配は、結果高卒認定試験合格で〇Aで大学進学したいとこの不登校もあり、無理もないか。

早速、当該中学校の出席認定を受け、毎日当フォーラムの教室に通って勉強を続け、週3回のカウンセリングと週1回の両親の面談を開始した。10月中旬の夜発ち2泊2日の交流合宿にも参加し、稲刈りや当地の中学生との交流を体験した。

その翌月11月末、突然彼は「先生、ぼく、今日夕方、友達に話を付けて来る」と言い出した。このままでは納得できないと言う。感情の発露に自己主張、カウンセリングの効果である。翌日から再登校を果たし、夕方来た彼の晴々とした顔から、友達との話し合いの成果を感じた。言われっぱなしの生活に止めを付けた。

翌年、寮のある高校を受験し、母親からも自立した。系列の大学にも進学し、上越の会社に勤めたと聞いた。もう結婚して家庭を持っているだろうか。